

景況12期連続プラス

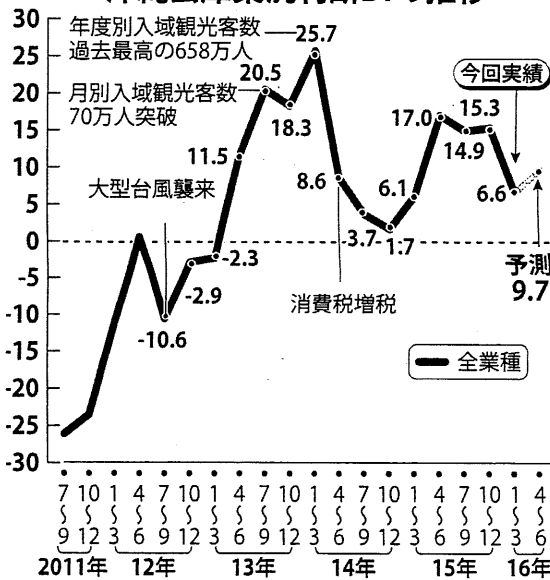
公庫1～3月 観光関連が好調

沖縄振興開発金融公庫（譜久山常則理事長）が15日発表した1～3月期の県内企業景況調査は、前年同期に比べ景況が「好転した」から「悪化した」と答えた企業の割合を差し引いた業況判断DIが6・6で、12期連続のプラスとなった。

前期から8・7で低下したものの、好調な観光需要を背景に観光関連でプラスが並び、好感感が広がっている。4～6月期は9・7でプラス維持を見込む。沖縄公庫は「前年好転した」と回答した企業が、今年も好調で『不変』を選び、63・5%ある。県内景況は拡大している」と分析する。

観光客数の増加で飲食店・宿泊業は33・3と高水準をキープしており、「悪化した」

沖縄公庫業況判断DIの推移



と答えた企業は飲食店1、ホテルは0だった。小売業は百貨店・スーパーの売り上げが好調で6・4、建設業は公共・民間とも需要が底堅く、6。全8業種で2桁を記録した。

一方、従業員の過不足感を示す雇用DIは過去最高の43

し、経営上の問題点も5期連続で「求人難」が最多にあがるなど、人手不足感は逼迫している。運輸業、サービス業では、人手不足から新規受注を取れない状況も生じている。

景況、12期連続でプラス 沖縄公庫1～3月期 建設需要底堅く

県内景況天気図

※景況天気は売上DI・採算水準DI・資金繰りDIの平均値

業種	2014年		2015年				2016年		
	10～12月期	実績	1～3月期	実績	4～6月期	実績	7～9月期	実績	10～12月期
区分	10～12月期	実績	1～3月期	実績	4～6月期	実績	7～9月期	実績	10～12月期
業種	10～12月期	実績	1～3月期	実績	4～6月期	実績	7～9月期	実績	10～12月期
全業種(前年比)	10.2	13.1	17.1	14.8	19.0	14.3	15.7	12.6	
製造業	1.9	3.9	7.7	18.2	24.2	16.1	16.1	18.2	
建設業	5.9	14.5	11.3	5.6	9.0	8.0	14.0	6.3	
卸売業	17.1	19.7	26.4	20.6	25.6	22.5	19.0	23.8	
小売業	17.1	19.7	29.6	17.8	18.5	20.7	22.0	15.6	
運輸業	20.2	5.2	17.2	7.8	28.1	10.4	13.7	5.9	
情報通信業	▲11.8	0.0	3.5	1.8	▲5.3	5.3	8.8	▲1.8	
サービス業	6.1	13.3	10.9	5.9	13.3	12.6	9.4	7.2	
飲食店・宿泊業	26.4	31.8	36.1	50.0	43.5	17.4	23.6	19.4	

● 快晴…30以上～100以下 ● 晴…10以上～30未満 ● 薄曇り…▲5以上～10未満
 ● 曇り…▲30以上～▲5未満 ● 雨…▲100以上～▲30未満 (単位：%ポイント)

沖縄振興開発金融公庫は15日、2016年1～3月期の県内企業景況調査を発表した。前年同期に比べて景況が「好転」していると答えた企業の割合を示す業況判断指数(DI)は、プラス6・6となり12期連続プラスとなった。景況天気も12期連続で「晴れ」となり、いずれも連続記録を更新

新した。沖縄公庫は景況判断について引き続き「拡大している」と評価した。人手不足による受注機会の逸失などで運輸業やサービス業で実績が悪化した一方、好調な観光需要や底堅い建設需要を背景に全体でプラスを維持した。業種別では運輸業のみマイナスとなった。マイナスが続いて

いた情報通信業は受注増により改善した。
 沖縄公庫は来期(4～6月)の景況見通しについて、人手不足の影響は続くが、好調な観光需要などを背景に「『好転』超幅がやや拡大する」とした。
 調査は2月下旬～4月上旬に実施。調査対象は資本金1千万円以上、従業員20人以上の県内企業で、369社のうち349社(回答率94・6%)が回答した。